

広島県立呉宮原高等学校 2年生の皆さんからの訪問インタビューを受けて

11月1日、広島県立呉宮原高等学校の2年生4名の皆さんが呉看護学校に来校されました。

広島県立宮原高等学校(以下、宮原高等学校)では、2年次に「総合的な探究の時間」の一環として、呉市及び周辺の企業・団体等を訪問し、現代の社会で必要とされる探究心を養い、高校生の視点を活かしたチャレンジや解決法を探ることを目的として、訪問インタビューを実施されているようです。

事前に代表の生徒さんから連絡をいただき、日程調整後、当日を迎えました。

当校を訪問先を選んでくださったのは、「宮原高等学校の近くにある大きな病院の附属看護学校に訪問し、医療についての疑問を解決したい」ということからでした。

インタビューには、副学校長・教育主事・新人教員の4名で回答いたしました。具体的な質問としては、「看護師不足と言われているが、実際はどうか」「少子高齢化と看護師数について」、当校の「学生数」「学校行事について」等々、事前にグループで話し合い準備された内容でした。全国の看護師国家試験の毎年の合格状況や国立病院機構のデータ等を用いて、時には生徒の皆さんの考えを聴きながら、回答させていただきました。4名の皆さんは、熱心に頷きながらメモを取っておられました。

今回のインタビュー結果と調べ学習内容を後日学内で発表されると伺いました。

宮原高等学校の生徒の皆さんの学習の一助になればと思いながら、またその発表を聴かれたうちの一人でも多くの皆さんに看護師を目指していただければと思いながら、インタビューの時間を終えました。

